

葉山神社と石神社

葉山神社と石神社は、石峰山にある二つの神聖な場所で、長い歴史を共有しています。葉山神社は室町時代（1392-1573）に建立され、この地域を治めていた伊達家の学識に優れた当主、伊達政宗(1567–1636)の庇護を受けました。葉山神社は、雄勝法印神楽という華麗な面や衣装を特徴とするこの地域の伝統的な神楽（神を楽しませるための音楽や踊り）で有名です。雄勝法印神楽は重要無形民俗文化財に指定されています。葉山神社は 2011 年の津波によりひどく損壊しましたが、2019 年に完全に再建されました。

奈良時代(710-794)に建立された石神社は、石峰山山頂の杉林の奥深く、葉山神社から 40 分ほど歩いたところにあります。何世紀にもわたって、修験者たちは山頂まで登り、石神社の御神体である高さ 7 メートル、幅 3 メートルほどの大きな岩に参拝してきました。この大岩の形は、平安時代（794-1185）に日本の貴族が頭に被っていた烏帽子という帽子に似ています。石神社は旅人を守る神を祀っています。